

はじめに

卓球を知らない人は、ほとんどいないし一度はラケットを握ったことがあるのではないのでしょうか。しかし、その昔は根暗のスポーツといわれ、卓球は自慢できるスポーツではなかったように感じる。近年は、福原選手や石川選手の登場によって、テレビ放映もあり明るく楽しいイメージに変わってきている。かなりメジャーなスポーツになり人気も出てきて、競技年齢も低くなり小さい頃からラケットを握り愛ちゃんのように日本代表を目指す選手も増えてきている。

1 埼玉県の卓球競技人口の推移と現状

- ・高体連の加盟登録状況を見ると、ここ10年男子は3000名前後、女子は900名前後でありあまり変化はない。平成25年度は男子2785名女子921名（平成25年8月現在）で、女子はここ何十年で始めて900名を超えた。
- ・日本卓球協会の加盟登録人数を見ると、小学生から一般までの全体の登録者数は、増加傾向にあり、平成16年度は9014名だったのが、毎年増加し平成24年度は10395名と1万人を超えた。平成24年度の中・高校生の協会登録数を見ると、中学生の男子が2608名女子が1487名、高校生の男子が2356名女子が711名となっている。
- ・高体連と卓球協会の登録者数から、考えられることは、協会の登録には登録料がかかり、お金を払って試合に出ようという人の集まりであるから、卓球を楽しみたいだけの愛好者はもっと多いと考える。高校生についても、高体連登録者数>卓球協会登録者数となっている。また、気になることは、男子は中学生と高校生で登録者数の差はほとんどないのですが、女子について見ると、中学生の女子の登録者数は1487名であるのに高校生の女子の登録者数は711名と半減していることである。高校で卓球をやめてしまう女子を少なくしていくことによって、より一層の普及が図れるのではないかと考える。

2 全国での埼玉県の位置

- ・高体連、卓球協会の加盟登録者数は、1で述べた通りである。その数は全国で見るとどうなるかというと卓球協会のデータが平成25年度がまだないので、平成24年度のデータで見ると、高体連加盟者数は、男子2922名で愛知4031名、東京2984名に次いで全国3位、女子は872名で愛知1794名、兵庫945名、東京892名、静岡880名に次いで5位と全国的に見て卓球人口が多い県となっている。協会加盟者数は、男子が2356名で東京3932名、愛知3745名、神奈川2727名に次いで4位、女子は711名で愛知1716名、兵庫903名、東京873名に次いで4位でこちらのデータでも全国的に見て卓球人口が多い県となっている。
- ・埼玉県の實力はというと、女子の正智深谷高校がインターハイや全国選抜大会で3位になるなど全国的にも知られた強豪校となっている。また、埼玉出身で高校まで埼玉でプレーしていた塩野真人選手が5月の世界卓球団体戦の日本代表の一員に選出されました。埼玉県からでも日本代表や世界で活躍する選手が出てきているのは、嬉しいことである。今後塩野選手に続く選手が、どんどん出てきてほしいものである。

3 普及の可能性と活動

・テレビ等マスコミの話題性

近年テレビ東京で卓球の試合が中継されたり、卓球選手がバラエティー番組に登場するなど話題になることが増えてきた。それによって卓球に興味を持つ子供たちが多くなっているように感じる。この状況が続けば普及が促進されるはずである。しかし、世界で勝てないとか映像的にあまり魅力がないなど話題性に欠け視聴率が稼げなくなれば、すぐに撤退されてしまう。選手強化が、必ず必要となってくる。

・ 見ても行っても楽しめるスポーツ

見て楽しめるために、ラリーが続きさらにサービスですぐ点数が入らないようにボールを 40mm に大きくしたりサービスのルールを変えて見る側からも楽しめる工夫をしている。高校生など学生対象の大会はないが大人を対象とした 40mm より大きいラージボールの卓球もあり年配者を中心にかなり活発な活動が行われている。卓球人口は、今後さらに増加すると思われる。

・ 高体連・卓球協会の取り組み

試合の開催や運営だけでなく、塩野選手を招いて技術講習会を開いたり、各地区で年に1回程度指導者講習会を開くなど技術講習会の開催や指導者講習会などを行い、技術向上と指導力向上に努めている。また、ジュニア世代もバンビ・カブ・ホープス・カデットなどのカテゴリーで大会を開催するなどを行っている。

・ 地域の活動・クラブチームの役割

スポーツを行う場合は、中学校・高校の部活動が中心であったが、競技開始が中学校からでは遅く普通小学生から地域のクラブチームなどで練習を行い、技術向上をしているケースが多い。現在においては、普及および技術向上においてクラブチームの存在は、ますます重要になってきている。実際に高校がクラブチームを作って小中学生を指導しているケースもある。国が行う強化策として、ナショナルトレーニングセンターで活動するエリートアカデミーの存在もある。教員として学校で指導するだけでなく、指導力のある大人が地域で指導することも多くなっている。選手としてだけでなく将来指導することが出来る生徒を育てることも必要になる。学校・地域がうまく連携することによって、さらに普及することが可能となってくる。

おわりに

普及という観点で話をしてきたが、まずはそのスポーツが普及し底辺が拡大されなくてはならない。その中からこそ優秀な選手も現れてくる。地域や小中高校の連携を図り、一層の指導体制を確立することが必要であり、普及・育成・強化がうまくまわる競技になることが望まれる。

卓球も最近では、ドイツや中国など海外に出て行く選手も増え、海外での練習方法やトレーニング方法などを学んで帰ってくる選手も多い。日本だけでなく世界に視野を広げ、卓球の強化や普及について参考にすることも必要である。

今後も多くの卓球選手や指導者が育つことを願い活動を続けて行きたい。